

「私こそテコンドー・オタクです」

北川 弘幸 (佐賀小城テコンドークラブ 45歳)



大学を卒業し始めて就職した会社の初めての上司に「ラグビーをやらないか！」と毎日誘われ続けました。どうせ何かやるなら色々見てみよう！体を動かすなら武道・格闘技関係が良いと思いました。今思えばここで自分の目で確かめる行動を取らなければ、きっと今頃私はラグーマンとなって夕日に向かって

走っていたのではないかと思います。

空手、少林寺拳法及び合気道など・・・色々な武道を見学しましたが自分の感覚に合致するものはありませんでした。1990年代の後半になるとインターネットが普及し、様々な情報をパソコンで調べることが出来るようになりました。そこで目にしたものが「テコンドー」でした。テコンドーに初めて出会ったのは「鉄拳」と言うゲームの「ペク・トーサン（白頭山）」と言うキャラクターで、今ではポピュラーな「ネリョ・チャギ」などの華麗な足技の使い手だったと記憶しています。「テコンドー」をインターネットで検索すると韓国系（WTF テコンドー）と北朝鮮系（ITF テコンドー）という2つの団体があることを知りました。テコンドーのオリジンは ITF テコンドーと知り学べる手段を探したところ、当時の九州地方では東京の本部道場に所属する師範が巡回指導するキャラバン道場（通信教育）しか学ぶ手段ありませんでした。一方韓国系の WTF テコンドーであれば佐賀市内でも練習できる道場があるようでしたので、早速見学に行きました。そこで実際に目の前でネリョ・チャギをする練習生の姿を見た私は大変感動し「私も出来るようになるかな・・・」と思い入門することにしました。しかし、現実には WTF テコンドーでは型や約束組手は左程重要視されず、「蹴る」こと、相手という名の対人競技で勝つことが偏重的に最重要視されていました。WTF テコンドーはオリンピックの正式種目ですが、それは同時に格闘技としての「強さ」の向上を意味するのではなく、相手に足を当てるに過ぎない加点減点の範疇に留まる純然としたスポーツ競技であることを意味します。これは WTF テコンドーを続ければ続けるほど思うようになりました。そこで、やはり原点である ITF テコンドーに対する憧れも日増しに強くなっていきました。WTF テコンドーを続け指導も少なからず行うようになったのですが、ある日師事していたテコンドーの先生が突然辞めることになりました。私は途方に暮れてしまいました。ただ、残された練習生もいるので指導の傍ら練習は続けました。指導者が不在になった道場は佐賀県の WTF テコンドーの会長が自ら指導することで練習を続けられるようになりました。指導者は変わったもののテコンドーは続けられる環境でしたが、憧れていた ITF テコンドーをどうにかして出来ないものかと考える自分がいました。そこで思い切って東京の本部道場に直接電話して同好会でも良いので認可をしてもらいたいと相談したところ宮崎県で行われるセミナーに来るので、そこで話を聞いてもらえるとの運びになりました。宮崎県へ行くと憧れていた道着（WTF と ITF では同じテコンドーでも道着が異なり後者の方がデザインは優れている）に身を包み練習している人達がいきました。そこで東京から来た師範と直接話をする事で私は ITF 不毛の地である佐賀で同好会を開くことが出来ました。余談ですが ITF テコンドーの同好会を開設する情報をどこで知ったのかは分かりませんが、以前所属していた WTF テコンドーのほとんど面識のない師範から誹謗中傷のメールが届きました。内容は今でも覚えていて「共産圏のテコンドーを佐賀に広めるなどとは恥を知れ」と言った馬事雑言でしたが、古巣の WTF テコンドーに対して残念な気持ちになりました。

話は変わり ITF テコンドーでは慣れない朝鮮語や型をビデオで見ながら練習することに大変苦勞しましたが、憧れていた ITF テコンドーを学べることに強い満足感がありました。ただ、ITF テコンドーでは日本の総理大臣を暗殺した人の名前や反日活動を英雄視する人物が型の名前になっている事、極めつけは金正日を称える型があることなど北朝鮮との繋がりが強く、自分が目指す武道としては学んで行くうえで厳しい部分が段々と分かって来ました。今とは異なり、ITF テコンドーでは東京から来られる師範の旅費の工面や寸志と称して金銭を要求されることにも限界を感じていました。そこで、悩んだ末にお世話になった師範に手紙を書いて辞意を伝えました。手紙を書いた数日後、その師範から電話があり辞意については慰留されませんでした。先般佐賀にきた時にもらい損ねた寸志を速やかに現金書留で送る

ように言われました。むしろ口座振り込みの方が便利だったのですが。

ITF テコンドーを辞めてからはテコンドーではなく何か違う武道をしようと思いました。私が武道を始めた1990年後半からすると格段に武道団体は増えていました。フルコンタクト崩れのような人が興じた空手も増えていました。しかし、団体は増えたものの相変わらず魅力があるものに出会わない毎日が続きました。ある日、何気に「テコンドー」と言う言葉を無意識にインターネットで検索していました。すると日本テコンドー協会（JTA テコンドー）と言う今の私が所属する団体を見つけました。九州では佐賀県の隣にある長崎県佐世保市にクラブがありました。練習は平日の水曜日の午後7時からと定時に仕事を退社すれば何とか練習には間に合いそうです。私はまず日本テコンドー協会長崎佐世保クラブのクラブ長である廣川禎教クラブ長にメールで問い合わせました。他団体を2つも渡り歩いており通常ならば私など相手にされないところを真摯に対応して頂き、佐賀まで出向いて私の話を聞いていただき質問にも丁寧に答えてくれて、最後に道衣も見せてくれました。そこで私は当時抱いていた一切の不安が払拭されました。その当時質問した内容は今でも覚えていて「北朝鮮との関係」や「寸志の有無」など大変失礼な質問をしたのが昨日の様に思い起こされます。JTA テコンドーを始めてからは迷いが無いためか練習に打ち込むことが出来ました。私に JTA テコンドーを指導されるに当たって、どのような練習を希望するのかも密に話を聞いてもらいました。私の希望どおり WTF テコンドーのように組手のみや、ITF テコンドーのように型ばかりではなく武道としてバランスよく習得したいとの申し出どおり指導していただいたと今も大変感謝しています。ただ、2時間弱の道のりを往復し家に帰る頃には真夜中、練習日は仕事を定時に帰りますがその他の日は退社が真夜中になり蓄積される疲労は否めませんでした。しかし、JTA テコンドーを佐賀で広めたいという情熱と良き指導者のお陰で2年間頑張れて昇段できたと思います。今から10年前に通った佐世保までの2年間で、大雪で峠を越えられなかった時と徹夜明けなどによる体調不良の日以外では3日程度しか練習を休まなかったと記憶しています。これは私が勤勉なのでも真面目なのでもなく熱く指導してくれた人への最大の恩返しは自分が上達することだと思わせてくれた指導者と巡り合ったからだと思っています。年齢も40代中盤に近づき体力は衰え、一方仕事は忙しくなり自分を見つめなおす時間も取れずにいますが私は体が動く限り JTA テコンドーを佐賀で広めていきたいと思っています。